



「ニュース番組風リモート朝礼」の取り組み

株式会社アイリッジ

経営管理本部 経営企画部

視聴率ほぼ100%！ニュース番組風 リモート朝礼とは

- 2020年4月から実施している、毎週月曜日・朝10分間のグループ全社情報共有の場。
- ニュース番組のようなアニメーションやテロップ、BGMなどを工夫することで、「×退屈な会議→○見たくなる番組」を目指す。
- Zoomを利用したライブ配信の視聴率は毎回ほぼ100%。YouTubeによるオンデマンド配信も実施している。
- 他の会議体では扱わないユニークネタで、リモート下で失われる「チーム外・業務外情報」を補完しOne team力を向上。
- 主なコンテンツは以下（ヘッドラインを除く）の5コーナーとなっている。



ヘッドライン

オープニングアニメーション後に表示される
その日のアジェンダ



新入社員紹介

新しく仲間になるメンバーについて
紹介するコーナー



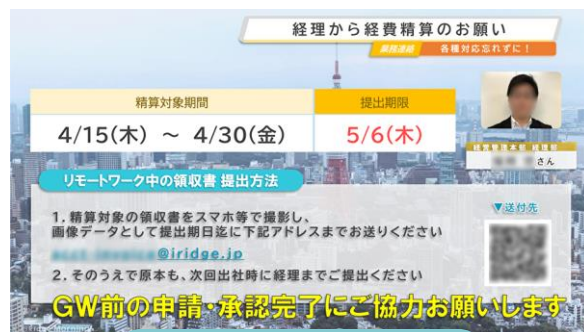
リリース情報

新しく提供開始したサービスやキャンペーンなど
主に前週の事業関連ニュース紹介コーナー



共有情報

部活やイベント、チームや役員紹介、
業務改善の取り組みなど幅広く紹介するコーナー



業務連絡

経費精算や勤怠管理その他、
広く周知が必要な情報共有を行うコーナー



小田さんの今週の一言

その日の発表内容や情勢に応じた、
代表取締役社長からの発信コーナー

リモート下のコミュニケーションリスク解消を目指す

- 企業向け大型アプリ開発やDX支援など、さまざまなメンバーによるOne teamが求められる事業を展開してきたアイリッジでは創業以来対面コミュニケーションを非常に大切にしてきたが、コロナ禍で初のリモートワーク体制に。
- 世の中も初回の緊急事態宣言下で先行き不透明な中、慣れないリモートワークが続く社員の不安感を和らげ、一体感を醸成するオンラインコミュニケーションのあり方を模索。
- コロナ以前よりオフィスで実施していた全社朝礼の内容と演出を、オンラインの特性を活かしたものにブラッシュアップした。

リモート下でのリスク

・チーム外、業務外の情報量低下による業務効率悪化

- 偶然の何気ない会話、雑談がなくなり、業務で関わらない人との接点がゼロに。アイデアも生まれなくなる
- 会話したことのない人は、顔や名前、担当業務、人柄などもわからず、必要が出た時の適切な連携がしづらくなる

・一体感、帰属意識の喪失によるモチベーション低下

- 目の前の業務を淡々とこなすだけの日々が続くことにより視野が狭まり「チーム」の認識も狭くなりがちに

・オンラインコミュニケーションのストレス

- 対面に比べ細やかなニュアンスや熱量が伝えづらい
- 一方向感が強くなり一体感を感じにくい
- 業務に必要な情報以外が入ってこない

解消の取り組み

・全社会議で発表するまでではない細かい業務関連情報を紹介し「ちょっとした情報共有の場」を再現

- 短くキャッチーにまとめ、気軽に聞きやすい内容に
- 各ネタは担当社員がフィールドキャスターとして発表。入社年や得意分野等を添えたプロフィールで人と成りも認知

・業務を越えたチーム感を感じるコンテンツを企画

- 業務上の取り組みだけでなく、部活や社内イベントなど会社や仲間への関心を高めるネタを掘り起こし一体感を醸成

・オンラインならではの演出と双方向性で楽しさを

- ビジュアルや音声でわかりやすさと没入感をアップ
- Zoomのチャット機能での拍手やエール送り合いを推奨
- 他の会議では扱わないユニークネタにも注力

配信時＋運営の間でも社内コミュニケーションを活性化するリモート朝礼

- 毎週月曜日・朝10分間のライブ配信を行う「ニュース番組風リモート朝礼」でグループ全社の情報を全社員に共有。
- 配信コンテンツは経営企画部メンバーを中心とした毎週の編集会議や業務フローの中で集めたネタをもとに決定。
- ネタ集めから編集会議、資料作成、配信まで、全ての工程をクラウドサービスと誰でも使えるツールを活用して完結。
- コンテンツを社員に届けて社員同士の社内コミュニケーションのきっかけを作る取り組みに留まらず、ネタ収集の場 자체가、運営メンバー同士や情報提供者・発表者とのクリエイティブなコミュニケーションの場に拡張してきている。

基本データ

- **開始時期**：2020年4月 ※2021/4/26で50回達成
- **対象者**：グループ全社員（派遣・業務委託社員等含む）
- **方法**：毎週月曜日に10分間、Zoomによりライブ配信
- **使用ツール**：
 - 資料作成・・PowerPoint
 - アジェンダ管理・・Googleスプレッドシート
 - 情報収集・・slackの専用channelを運用
 - ライブ配信・・Zoom ※開始当初はMeet
 - オンデマンド配信・・YouTubeで社内限定公開
- **過去配信したユニーク「共有情報」例**：
 - 役員陣のStayHome週間・・在宅を楽しむアイデア
 - 1min.ヨガ・・ヨガ部長レクチャーによる運動不足解消
 - その他部活紹介・・ネコ部、キーボード部、競技プログラミング部等、在宅向き部活紹介
 - 新卒生入社1ヶ月レポート・・オンボーディング支援
 - チャットタイム・・エンジニアによる、ランダム雑談マッチング～予約自動化の取り組み

取り組みのポイント

・クラウドサービスを活用し運営を見える化・迅速化

運営メンバー同士や、発表者をアサインする各チーム長、発表者とのやり取り～配信までクラウド上で完結しスムーズに

※複雑なアニメーション設定のため資料はPowerPointを使用しているが、各回分はクラウド上に保存・共有

・誰でも使えるツールでのテンプレート共有で標準化

PowerPointでのテロップなどの加工方法やサンプルテンプレートはブログで社外向けにも公開し広く使ってもらえる仕組みに

・適材適所の役割分担で運営負担を抑え効率化

入社者情報や部活情報は人事が、リリース情報や各種取り組みは広報が収集、というように、日々の業務の延長線上にフローを組み込むことで効率化やシナジーも

・キーパーソンと社員を巻き込み運営を新たな創造の場に

コンセプトと継続的運用により「朝礼ブランド」を育て、ネタ提供してもらいやすい関係を構築。やり取りの中で得られた情報や発想が朝礼ネタに留まらない展開にもつながっている（運営の場がリモートで失われた「何気ない情報共有の場」に）

社員一人ひとりを主役にする工夫で双方向性や社員の関心を獲得

- リアル開催時よりも双方向性や主体性が向上。2020年6月には自社のバリュー（行動指針）を体現した取り組みに贈られる「バリュー賞」も獲得し、運営メンバー以外の社員や経営陣も積極的に関わる全社的な取り組みとして定着化。
- 開始から約半年後の社内アンケート調査でのポジティブな意見やリクエスト多数。主なものは以下のとおり。
 - ・ 会社のことが分かりやすい / 他部署の動きが知れる / デザインがよい / 尺が丁度いい / 完結に要点が伝わってよい
 - ・ 役員の話がもっと聞きたい / メンバー同士の共有の場になるといい / 細かいリリース情報をもっと拾ってほしい

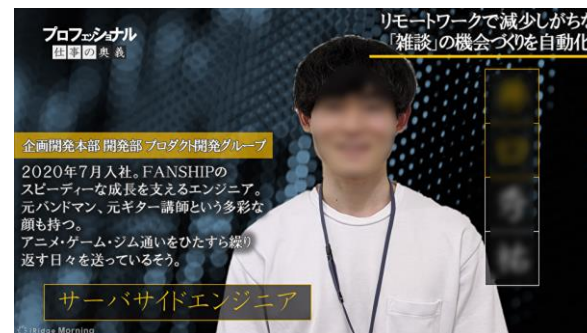
主な効果・成果

- ・ 発表に対してZoomチャットを通じたコメントやエールが送られるようになり双方向性が生まれた
- ・ 取り組みは四半期ごとの「バリュー賞」も受賞
- ・ 社内アンケート調査では、任意回答ながら45件のポジティブな意見やリクエストが寄せられた（以下一部抜粋）
- ・ 紹介した部活は部員が増え活動が活発化する傾向
- ・ 「ニュース番組風朝礼らしさ」を意識したデザインや演出の資料を自ら用意してくれる発表者も出現

共有情報 全社朝礼アンケート結果			
対象コンテンツ	よかった点	改善要望	対応策
全体	<ul style="list-style-type: none"> ○会社のことが分かりやすい ○オフラインより分かりやすい ○スライドのデザインがよい ○尺が丁度いい ○簡潔に要点が伝わってよい 	<ul style="list-style-type: none"> △役員陣の話が聞きたい △メンバー同士の共有の場になるといい △BGM(ボリュームや音質)が気になる △臨機に臨めがよい △小田さんの考えが知れる情報をもっとほしい △重くて読みづらいところがある △スライドが凝っているため発表参加のハードルが高い △質問がもっとコメントするといふ 	<ul style="list-style-type: none"> ✓役員陣(部長以上)のコンテンツも検討していきます ✓開始・終了時のBGMのボリュームを調整しました ✓皆さんのネット環境負荷も踏まえ、アニメーションはシンプルにします ✓Meet→Zoom移行に伴う物理的なコメントのしづらで解消を目的に、来週にチャット機能利用法の再アナウンスをします

工夫ポイント

- ・ 日頃関わりのない社員同士の関係構築支援のため、なるべくさまざまな社員が発表者になれるようにするとともに、ちょっとしたプロフィール情報を紹介（以下参考）
- ・ ネタに関わったメンバーと役割を全員スライドに表示し、目立つ人だけでなく全員に労いが行き渡るように&誰が何を担当しているのか、得意なのかがわかるように
- ・ 他の会議にないユニークネタの掘り起こしを強化し、朝礼ブランドを浸透させるとともにマンネリ化を防止



他の施策との連携を強化し社内コミュニケーションのハブへ

- 任意参加・月1回開催の社内飲み会「アイリッジバー」やプログラムによるランダム雑談マッチング「チャットタイム」など、同じく社内コミュニケーション施策として実施している他の取り組みとの連携を模索中。
- 第一弾として、その月の「アイリッジバー」にゲスト参加する役員の紹介コンテンツを直前の朝礼に組み入れ、「アイリッジバー」での役員との交流のきっかけづくりを開始。
- 今後もグループ全体の細かな情報を拾い上げ、シナジーを高める社内コミュニケーションのハブへの昇華を目指す。



アイリッジバー連動 新コンテンツ・役員紹介

アイリッジバーとの連動で役員をもっと知れる
共有情報 新コンテンツ

20の質問から役員の人と成りに迫る



アイリッジバー

朝礼で聞けなかったこと、もっと深堀りしたい話は
その週の木曜日夜開催のバーで

その他社内コミュニケーション施策

連動コンテンツ検討

活動のタイムライン

2020年 🙏

10月: チャットタイムの発案・企画

11月: Chat Scheduler 開発開始

11月: チャットタイム初開催

12月: Chat Scheduler 運用開始

2021年 🙏

～現在: Chat Scheduler 強化(マッチングのアルゴリズムなど)

チャットタイム

Python製プログラムにより週に一度ランダムな
数名での雑談タイムを自動予約する取り組み